

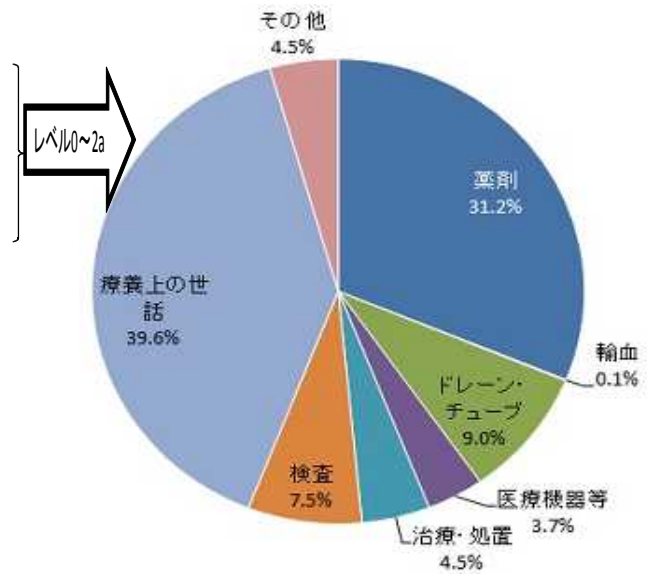
道立病院における医療事故等の発生状況

(平成25年度下期(平成25年10月~平成26年3月))

1 医療事故等のレベル別発生状況

区分	レベル	件数	割合
インシデント	レベル0	329	24.0%
	レベル1	906	66.1%
	小計	1,235	90.1%
医療事故	レベル2a	127	9.2%
	レベル2b	4	0.3%
	レベル3	5	0.4%
	レベル4	0	0.0%
	レベル5	0	0.0%
	小計	136	9.9%
合計		1,371	

2 レベル0~2aの種類別割合



【過去3年間の推移】

医療事故等件数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
上期	1,822 (2)	1,612 (1)	1,492 (2)	1,750 (2)
下期	1,572 (0)	1,337 (0)	1,383 (3)	1,371 (0)
合計	3,394 (2)	2,949 (1)	2,875 (5)	3,121 (2)

※()内はレベル4以上で再掲

3 レベル2b~レベル5の発生状況

【一括公表(過誤なし)】

レベル	件数	事例
2b	4件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他患者につまずいて転倒し、肋骨骨折でバンド固定となった。 ○ 詰め所前で転倒し、後頭部に3cmの裂傷を認め、4針縫合処置となった。 ○ 転倒により右肋骨を骨折し、バンド固定となった。 ○ 入浴時に、左上腕の膨張・皮下出血が認められたことから、左上腕の骨折が判明し、手術適応外のため、骨折部位の保護による保存的経過となった。
3	2件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車椅子から立ち上がる際に転倒し、右大腿骨骨折による手術となった。 ○ 杖歩行中に転倒し、大腿部頸部骨折による手術となった。

【概要公表(過誤あり)】

レベル	件数	事例	原因	改善・対応策
3	3件	【事例1】 1件 ○ 輸液ポンプを使用して点滴治療を行っていた患者の左腕に著明な腫脹、水疱及び皮膚剥離が発生したため、専門医により、皮膚を移植した。	○ 輸液の管理を行う際の穿刺部位の確認及び状態の観察が不十分であった。	○ 輸液の際の観察方法等の学習会を開催するなどして、医療事故の未然防止について周知徹底する。
		【事例2】 2件 ○ 手術終了後、腹部レントゲン撮影を施行した際に、腹部内にガーゼが残存していることが判明したため、直ちに再開腹を行い、体内に残存したガーゼを除去した。	○ ガーゼカウントの手順や様式に一部不備があった。 ○ 手術に使用したガーゼ枚数のカウントミス及び閉腹時のチェックミスが重なった。	○ ガーゼカウントの手順、様式を見直す。 ○ 腹部内のガーゼの留置がないかの確認を徹底する。